

## 大強度陽子加速器施設「J-PARC」の整備推進等について

### < 提案・要望先 >

財務省，文部科学省，日本原子力研究開発機構，原子力規制庁

### < 提案・要望内容 >

本県は，つくば・東海の最先端科学技術や，我が国を代表するものづくり産業等の集積を活かして，イノベーションを絶えず生み出し，21世紀の日本の科学技術をリードする活力あふれた県づくりを進めております。

とりわけ，東海・大洗・那珂地区におきましては，世界最高性能の大強度陽子加速器施設（J-PARC）をはじめ，日本原子力研究開発機構や大学等の原子力関連施設が集積し，新産業の創出を目指した物質・生命科学の研究や，環境に優しい次世代エネルギーの開発研究，高レベル放射性廃棄物の管理期間の短縮につながる研究など，世界をリードする多様な研究開発が進められており，我が国の原子力研究開発の中心的役割を担っております。

つきましては，こうした研究成果を最大限に活かし，新事業・新産業の創出やエネルギー・環境問題の解決を図るとともに，次世代の研究開発を担う人材の育成，さらには国内外の専門人材が集まる研究・教育拠点の形成など本県の発展に結び付けるため，下記事項について特段のご配慮を願います。

### 記

- 1 J-PARCにおける施設の安全が不断に確保されるよう，高エネルギー加速器研究機構及び日本原子力研究開発機構に対し，適切に指導・監督を行うこと。併せてJ-PARCの研究目標やその成果，さらには国際的な研究拠点として期待される役割などについて，国が主体的に国民に情報発信するなどして，J-PARCに対する国民や県民の理解促進に努めること。
- 2 J-PARCが有する世界最高水準の性能を十分に発揮させるためには，今後，ビーム出力の増強やビームラインの高度化等を着実に進めていくことが重要であることから，J-PARCの整備等に係る予算を確実に確保すること。
- 3 産業界による円滑な施設利用と研究開発を促進するため，J-PARCのビーム利用料金の低廉化を図るとともに，研究開発を支援する体制の充実を図ること。また，J-PARCの安定的な運転を継続できるようにするとともに，所期性能である1MW運転の早期実現を図ること。

- 4 J - P A R C 計画の第二期に位置付けられている核変換実験施設での研究は、高レベル放射性廃棄物の管理期間の大幅な短縮が期待される、本県にとって大変意義のある技術開発であり、また、加速器、材料、プラントなど様々な分野の研究の進展や次世代人材の育成、さらには世界的研究拠点の形成につながるものであることから、所要の財源措置を行い、早期に施設整備に着手すること。
- 5 中性子線などの量子線科学分野において指導的役割を担う人材の育成を通じて、J - P A R C を活用した革新的な研究成果の創出を加速するため、茨城大学大学院理工学研究科量子線科学専攻及びその活動拠点としてのフロンティア応用原子科学研究センターの組織整備等に必要な予算を確保し、教育・研究機能の充実を図ること。
- 6 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所における核融合研究の長年の実績を活かし、I T E R 計画を補完・支援するために必要な臨界プラズマ試験装置 ( J T - 60 ) の超伝導化改修を計画どおり終了し、J T - 60 S A を稼働させるため、引き続き予算を確実に確保すること。また、大学・産業界との連携強化や核融合研究拠点としての研究基盤の充実を図ること。
- 7 日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターにおける高温ガス炉 ( H T T R ) については、優れた安全性を有するとともに、その高温熱を利用した発電に加え C O 2 フリー水素の製造が期待されていることから、水素社会の実現に向けた取り組みを加速させるため、必要な予算を確保するなどその試験研究の推進を図ること。